

平成17年9月7日

新潟県の米と自然を守る連絡会 御中

農業・生物系特定産業技術研究機構
中央農業総合研究センター
北陸研究センター

拝啓 初秋の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

当研究センターで現在実施中の遺伝子組換えイネの隔離圃場における栽培実験につきましては、これまでも、説明会、中央農業総合研究センターニュース、ホームページ等を通じて消費者、生産者にご理解を得るよう情報公開に努めてきております。今後とも、実験の過程については、ホームページ等を通じて情報公開致して参りたいと存じますので、よろしく願いいたします。

さて、先般貴会よりいただきました質問に対して下記の通りご回答させていただきます。

敬具

記

1. 隔離圃場における実験の様子は適宜、写真を含めて当センターのインターネット・ホームページで公開済み。なお、9月5日にはイネの開花終了を確認したので、パラフィンの袋を除去した。
URL: <http://narc.naro.affrc.go.jp/inada/def-rice/keii0830.htm>
2. ディフェンシンの耐性菌の発生については、今回の実験の目的ではなく、調査する予定はない。
3. 実験データについては、整理、分析し、学術論文としてとりまとめの上、来年4月の学会において発表後、公開の予定としている。
4. 開花状況については、当センターのインターネット・ホームページで公表済み。水張りの状態については、外部から確認可能である。
5. 実験参加者は7名。白葉枯病接種試験については、4月29日の説明会で説明済み。8月16日に病原菌を接種後、ほぼ毎日、1名が不織布のトンネル内に入り生育状況を観察。トンネル入退室は毎日午後4時頃から約30分程度。長靴は入室時、退室時に履き替えている。衣類、タオル等も念のため極力取り替えるなど細心の注意をはらっている。

6. 二番稲は8月19日及び8月31日に刈り取りをした。その後も、圃場を巡回して適宜刈り取りを実施している。
7. トンボやクモ等の管理は行っていない。
8. 実験圃場の排水は、メッシュを通し、浮遊物を取り除き、沈殿槽で沈殿物を除去する構造となっている。配水管位置については、外部から確認可能である。
9. 4月22日に農林水産省農林水産技術会議事務局技術安全課が公開した、第1種使用規程承認組換え作物栽培実験指針に基づく栽培実験計画書の中で、ディフェンシンは人工胃液、人工腸液で完全に消化されたことが報告されている。

URL: <http://www.s.affrc.go.jp/docs/genome/saibaikeikaku/list/list.htm>

10. 特段の問題は起こっていない。

だきたいと考えますが、いかがでしょうか。

4. 本テント内実験で組み換え稲の開花状況、水はりの状況等に関する写真やモニターを、即日公開して頂きたい。なぜなら、センターが申請していた開花時期と同時期に周辺農家の稲が開花しておりましたので、交雑可能性観点からしても県民に公開されるべきと思いますがいかがでしょうか。HPに公開しているとおりに、出穂期は8月22日で、周辺のイネと同時期ではない。

開花の
時期

5. 本実験で圃場に参加している人数、実験内容、テント入室出室の時間、衣類・タオル・手ぬぐい・長靴の処理状況等も公開されたいが、回答いただきたい。

許可されている者は8名、接種試験と生育状況の観察をほぼ毎日実施。長靴は履き替えている。

6. 一回めの稲刈り後、二番稲が出ているが、刈り取りをいつするのかご回答願います。8月19日に2回目の刈り取りを実施。その後適宜刈り取りを行っている。

7. トンボやクモ等が自由に出入りしていますが、圃場内管理はどのようにされているのかご回答ください。圃場は無農薬で管理しているためトンボは網の中で発生したもので出入りはない。今回の試験には無関係のためクモなどの出入りは確認していない。

8. 今夏大雨等がありましたが、圃場内外の排水状況、配水管位置図等公開されたい。稲田の圃場では、溢水など大雨の影響は全くなかった。施設は現地で

9. 4月29日の貴センター主催の説明会で、今までの屋内実験で、人工胃液、腸液でのタンパク質実験で安全性が証明されたと報告されていますが、そのデータを公開していただきたい。ディフェンシンは、人口胃液で15分以内で消化、人工腸液では0.5分以内で消化している。

10. 今までの屋内実験の中で発見された気づいた問題点についての資料があれば公開されたい。

問題は起こっていない。

以上

回答連絡先

新潟県の米と自然を守る連絡会

〒950-1125 新潟市流通1丁目・5-3 総合生協物流センター

TEL 025-260-3283 FAX 025-260-3265

岡とさし

5の続き

着衣、タオル、手ぬぐいなどについては、指針に指定はないし、袋掛けをしていることから、花粉等の付着の可能性はないが、できるだけ着替えるようにしている。

逓達

9 5 0 1 1 2 5

日本郵便
NIPPON
0390
07.07.05
09557
002597

総合生協物流センター

新潟市流通一丁目五十二

御中

独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構

中央農業総合研究センター
北陸研究センター

〒943-0193 新潟県上越市稲田1-2-1

電話(025)523-4131代表

電話(025)526-直通

FAX(025)524-8578